

# 平成28年度第2回長野市消防委員会

◇ 日 時：平成29年2月20日(月) 16時00分から

◇ 場 所：長野市消防局 3階会議室

1 開 会 出席者12名(16:00)

※ 欠席者：内山副会長・吉岡委員・安川委員(3名)

2 会長あいさつ(16:01) 小林会長

3 あいさつ(16:03)

長野市消防局長 瀧澤消防局長

長野市消防団長 猪俣消防団長

4 議 事

(1) 平成28年度消防局主要事業等について(16:10)

※ 資料に基づき佐伯室長説明

(2) 消防行政に対する意見・要望等について

時間等の都合により、(1)、(2)についての意見・要望等

渡邊委員：中央署が新らしくなるが、駐車場の施設はどのようになるのか。

瀧澤局長：見ていただいた外構のところに、ここに比べると多い状況です。

資料を確認いただくと庁舎が黄色になっておりますが、周りの緑色の植栽のところが駐車スペースとなっております。

渡邊委員：道路寄りもそうなのか。

瀧澤局長：植栽の東側も駐車はできる状況です。建物の西側に四角い囲いがあってスロープで道路の方に行ってゼブラゾーンになるが、そこは駐車できません。

ここも旧庁舎を壊して、区画をしていきます。

北澤副会長：高機能消防指令システム更新されたが、警察の協議会の会長をしまして先月、110番の指令システムの見学をさせていただきました。24時間でやっています、指令課の職員の皆さんも2交代ですよね。非常に24時間緊張している仕事なので、心のメンテナンスといたしますか、そういったものを対応をしていただくよう要望をしておきます。ストレスへの取り組みをお願いしたい。

瀧澤局長：承知しました。

千野委員：先ほど新庁舎を見せていただきました。非常に素晴らしいというのは分かったんですが、屋内訓練場、非常にいいです。ただ夏は冷房かけるのか。

瀧澤局長：自然換気なんですけど、入っていただいて南側のスペース、東の壁のところの周りに常に空気が出ていて、夏は冷気で涼しい風が出てくるようになっていきます。

千野委員：1か所で大丈夫なのか。窓を見た時に開閉の窓がなかったから、日射病にならない

いのか。あくまでも冷房はかけないのか。

瀧澤局長：冷房はかけないで自然換気をする。

千野委員：1年やってみれば分かるが、熱中症にならないように健康管理をしっかりとお願いしたい。

瀧澤局長：設計会社の方から提案で全然熱くならないとは想定していない。西日が当たるので、外気なるべく入るように、風の流れがあるようにさせていただいてあるので、1年様子を見させていただいて対応をする。

千野委員：先ほど救急隊の現場到着が8.4分ですか、5,6分で着くという話を聞いたことがあるがどうなのか。

瀧澤局長：これはあくまでも長野市全体での話で、ご説明申し上げた5分のエリアは、市街地に限ってのことで、中山間地域も含めるとそのようになります。

矢島委員：人口減少傾向なんですけども、地域の団員の方も若い人がいなくて困っている。その辺で市の方での対応を考えられているのか。入る人がいなくて年寄りきりになっている。消防団員の方です。

杉田次長：全体的に団員数は少なくなっておりますけども、今の長野市の消防団員の定数は3,430人、現団員数は、3,416人くらいで充足率は99.5%です。ご指摘のとおり年齢は高くなっている。その中で消防団員の確保する対応、消防団の応援ショップとか、協力事業所とか、そういったものを使いましてなんとか団員確保することを進めている最中でございます。また、最近、若者の大学生を通っている時に消防団活動をしていただくということも積極的に進めている施策でございますので、長野市もその方向で大学に行っている方が長野市に残っていただけるか分かりませんが、東京とか名古屋の方で大学生の時に活動していただいた方々が、地元に戻って来られた時には就職に有利になるような施策も全国的に始まりつつありますので、そういったものを利用して確保をこれからもしていきたいと考えております。

千野委員：本人は入ってもいいけども、親が反対するケースが非常に多い。親の勤めは何処かと聞いたら消防局と言った。局の皆さんは子供がもしそういう誘いがあったら率先して入れていただきたい。

杉田次長：今のご意見を反映できるよう職員の方に伝えたいと思います。

小林会長：私は今、信更にいますけど、信更分団の第2部ですか、結構、沢山入っていただいた。ですが、みんなそこに住んでいない。篠ノ井とかにいる。入っているが実際に活動している人は少ないと思います。県の方の協力事業所の経済団体に要請したという記事を見ましたが、企業の理解が一番必要ではないかなと思っています。消防団員に入ったら、企業の方も連絡着たら直ぐに行けというような理解のある企業を増やしていただけたらありがたいなと思います。出てくるのに本当に苦労して出てきているという話も聞きますので、是非お願いしたい。

杉田次長：ありがとうございます。頑張って取り組んでまいりますのでよろしく申し上げます。

北澤副会長：塩崎分署に救急隊配置とか、鶴賀消防署を新しく設置するとか、中央消防署ができたとか、職員の人員的な面で、不足することのないようにハード面はできたが、ソフト面もお願いしたい。

◇◇昨年、消防委員からいただいたご意見・ご質問について回答◇◇

◇杉田次長から説明◇

◎自主防災組織の育成強化について

○毎年消防署の訓練指導を受けて自主防災組織の訓練を実施しているが、ほぼ毎年同じような訓練になっている。そういったものを解消するために消防側には訓練計画段階から積極的にかかわり、その地区の実情に合った内容で緊張感のある訓練が必要ではないか。

●正しく、地区の実情に合った、地域特性を踏まえた訓練というのは、我々が望んでいるものでありまして、長野市全体としてもそのとおりと考えておりますけれども、訓練計画の段階から消防が積極的にという部分でございますけれども、訓練自体は地域の皆さんがやはり、長野市は特に防災対策については自助・互助・共助・公助こういった順番で、補完していくと全国的にもそうでございますけれども、その体制があることから訓練を作成する段階で地元の人達が意見を出し合ってもらった中で、相談の中から消防署がかかわっていくのは必要と思いますけど、消防署の方からこういう訓練はどうでしょうかという逆に与えたものになってしまうと、なかなか地域特性にあったものにはなっていないので、そういった部分で協力ができればいいのかなと考えております。

○地区内に保育園や小学校・中学校などがあるところもあるが、防災訓練はそれぞれが別々に実施していると思う。これらを含め地区全体での訓練が必要ではないか。

●これも正しく、今まで自主防災組織の連絡協議会であるとか、住民自治協議会単位での訓練をお願いしていることから、地域でそういう訓練が必要であることいくことであれば、全体でやるということが必要であると思いますし、先ほどもお話したとおり、自助・互助・共助・公助、そういったものの補完体制からいうと、地域で助け合っていく訓練は絶対必要だと思いますので、実効性のある訓練とすれば、こういった訓練になるとように、また併せて相談があった時には対応していきたいと思います。

小林会長：次長の言ったとおりなんですけど、ところが実際は上手くいなくて毎年やっていくこういう計画で一応やりますが同じようなものになってしまっていてそれで消防署の方に相談にいったお願いができますかといって終わりになっている。そうじゃなくて、いろいろなところで防災訓練をやっていると思いますので、いい訓練というものを把握していると思いますので、こうにやれではなくて、こういうことも必要ではないかなというくらいのことを言ういただければありがたいかなと思います。

杉田次長：勿論、そういう部分の話でございますけど、ただ雛形というか、訓練はこういうものというものはないので、そういったものは地域で導いていくことが必要だろうと、そんな中でたとえば要援護者の方がいらしゃれば今年はそのようなものを中心にするとか、アドバイスとか地域にかかわっていければと思っております。

毎年5,6月に実施します自主防災組織の会長、また防災指導員の研修会などで、その都度お話をさせてはおります。

◎自主防災活動組織の専門知識の向上について

○豊野地区では自主防災組織が7地区にあって、全体として豊野地区自主防災連絡協議会を組織している。各区に消防団のOBである防災指導員を配置して防災訓練等で防災知識の啓発活動を行っているが、活動するにあたって専門知識の向上を図る機会が少なく初期災害発生時の対応が十分に出来ない状況で、消防署等の指導をお願いしたいというご意見

でございます。

●これにつきましては、最初にお話したとおり毎年実施しております自主防災組織の会長、防災指導員の研修会で、いろいろなお話をさせていただいて研修をさせていただいておりますが、特に豊野地区は鳥居川消防署管内でございます、研修会のスケジュールだけで申し上げますと、なかなかうまく時間が取れないのが実情でございます。通常、午前中の3時間位を予定していますが、なかなか1時間とか1時間半位しか取れない状況でございますので、スケジュールなどを解決しながら地域と協力してやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

○防災対策等にドローンの導入を考えているのか。

地すべり、河川の状況等、事前の状況調査や被害状況等に使用できるドローンの導入の必要もあると思うが、どう考えているのか。

●事前の地域の状況につきましては、長野市では危機管理防災課の担当でございますが、ドローンの導入については、救助工作車Ⅲ型の更新とともにドローンを導入する予定でございます。ただ災害対応のために使っていきたいと考えております。運用方法等、細かいことはまだ決まっております。

持田委員：新しい庁舎を見せていただいて、3階にある訓練の場所、すごく見えていいなと思ったんですが、訓練というのが大体どのようなスケジュールで行われるのか。

中学生とか高校生とか見学できる場所があつて、非常にいいなと思ったんですが、たとえば月に1回とか2回でもいいので、あそこの場所を近くの企業なのか、学生などに開放をできるような時間帯があれば、地元の方々のコミュニケーションの場所になって非常にいいのかなと思ひまして、最近ロッククライミングとか、非常に盛んですし、長野市内の山岳会とか善光寺の物見の岩などで、垂直下降などの訓練をしていると思うんですが、たとえば月に何曜日と何曜日だけ決めて、皆さんお仕事なのでお忙しいと思いますが、消防の方と地元の方が触れ合いながら体力をつけて、身に着ける機会があれば非常にいいのかなと思います。怪我の問題とか、皆さんの業務の邪魔になってはいけないので、是非そういうことも可能であれば検討いただきたいなと思います。

瀧澤局長：ご提案いただきましたことについて、施設利用に関しましては検討しなければならないことが沢山ありますので、委員のとおり地域との触れ合いとか、消防署が溶け込むことは大切なことですので、検討をさせていただければと思います。

ただ訓練時間は、救助隊は通常業務内でやっておりますので、スケジュールを分ければ可能なのかなと思います。

救助の県大会や関東支部の大会、全国大会など3、4ヶ月も訓練を続けていますので、なかなか時間を空けることが出来ないの、いろいろな面で検討をさせていただければと思います。

北澤副会長：各署で消防広場とか消防まつりなどで、地域住民の皆さんと交流してもらうのも1回でも2回でも実施していただければ、地域に密着して理解をいただいて協力していただけるのかと思います。

瀧澤局長：イベント的なものであれば、何箇所かで実施をしております。

### **(3) その他**

原山課長：高機能消防指令システムについて、資料に基づき説明

委員会終了後、1階の指令室の視察を実施

## **6 閉会 (17:00)**